

平和、いのち、くらしを守るたたかい前へ

伊那民報

発行
日本共産党
伊那市委員会
伊那市狐島3879
有線も(72)2465

「放射能NO!」「脱原発」訴え

集会・デモに300人



列を歩くデモの列

東日本大震災から1年を迎えた3月11日、上伊那医療生活協同組合の呼びかけで伊那市役所に300人が集まり、「脱原発」の集会と日影のベルシャイン伊那店までのデモ行進をおこないました。

デモは初めてという多くの若者を中心に、子どもから高齢者まで参加しました。「脱原発」などのプラカードと共に、「原発は安全と言われたが最も危険」「このままでは人類が滅ぼされ

る」「子ども達に安心な未来を」「福島に笑顔を返せ」などの訴えが寄せられました。

「何か行動したいと考えていました。パソコンでたまたまヒットしたので参加しました。原発を無くして、子どもに安全な未来を残したいです。」

(三十代 主婦)

原発やめ、自然エネルギーへ転換を

県の民医連は3月17日、箕輪町で共同組織活動交流集会を開きました。550人余が集結。伊那市内からも大勢参加しました。午後の講演会では、福島県二本松市の三保恵一市長が「広島



講演する三保二本松市長
(箕輪町文化センター)

3・13重税反対集会に300人



参加者を行進する市内

上伊那民商などが主催した「重税反対全国統一行動上伊那集会」が3月12日いなつせで開催されました。集会後、増税反対や雇用の拡大を訴えながら商店街をパレードし税務署で集団申告をしました。

に投下された原爆の20倍もの放射能の恐怖におびえている。今なお34万人余が避難生活を余儀なくされている」と、苦難が続く状況を話しながら、原発をやめ自然エネルギーに転換する必要性を力強く訴えました。「政治家は歴史に検証される」との言葉が聴衆の胸を打ちました。25万円余の支援募金が、会場内で寄せられました。

地蜂

〔九条の基礎に人骨二千万〕『しんぶん赤旗』の「潮流」欄で紹介された松澤巖氏の川柳です。二千万人も犠牲の上に結晶した憲法9条への願いです。私たちの心を

痛める東日本大震災の千倍。それも戦争という人災でした。このアジア・太平洋戦争に国民を駆りたてた教育と報道の役割は大きなものでした。神話による教育と「大本営発表」に象徴される報道は、戦争の真実を隠し、侵略戦争を「聖戦」として教え伝えました。今日、学校教育への「君が代」強制が横行し、一方で「原発安全神話」が巨大メディアによって巧みに流されています。▼現場に近づくことすら出来ないのに「収束」を言ひ、根拠もない「安全確認」を強弁し、災害の補償と回復もそっちのけで再稼働につきすすむ政財界と巨大メディア▼しかし普天間基地県内移転反対運動のオールオキナワのように、脱原発はオールジャパンのたたかいに発展しようとしています。三〇〇名余の「3・11脱原発上伊那集会」とデモ行進は青空に映えるカラフルでユニークなパフォーマンスと親子連れや若者の参加が目立ちました。三月一七日箕輪町で開かれた「住民本位で毅然と闘う」福島県二本松市長の講演には五五〇名を超える参加者が会場を埋めました。▼来る五月三日の憲法記念日には、午後二時から狐島のJA本所で国民の平和的生存の権利を守るろうと、福島原発建設に携わった良心的技術者、小倉志郎さんが自らの体験をおして脱原発を訴えます(協力券500円)。政財界と巨大メディアの支配を乗り越える活動、真実を知らせあい、学びあう活動が高まっています。

NEC問題

「解決金」1千万円の議決に市民から疑問続出

3月16日、伊那市議会でNECライディング(株)(以下NEC)の補助金返還を求めた調停案の議決が行なわれました。

市側の提案は、NECと伊那市の間で工場用地に関する債権債務の放棄を条件に、解決金1千万円をNECが伊那市に支払うというものでした。

共産党伊那市議団は、この提案に「市民の貴重な税金と損害賠償請求権が大企業に奪われてはいけない」として強く反対しました。採決は反対3(共産)、賛成16で可決されました。

「百条委員会」提案を否決

また、党市議団は、伊那市とNEC間で「合意」していたのに契約書もつくらず、6億7千万円も支出して土地を造成するも、「白紙撤回」されたこと。その事業の事務手続きや、市の公印も正規のものが使用されていなかったことなど数件について、資料を示しながら、疑惑と法規違反があることを指摘し、同時に、NEC問題の幕引きを許せないとし、市議会に「百条委員会」設置の提案をしました。これに、共産党議員以外の発

言者もなく採決に入り、反対16で否決されてしまいました。党事務所などに市民から疑問や怒りの声が寄せられています。

議決を傍聴した市民の感想

私たちの税金にかかわる大事な問題の百条委員会設置の提案に、16人の議員さんは人形のように黙って座っていた。初めて傍聴したけど、市議会がこんなこといいのかねえ。これも、税金の無駄遣いだと思ったよ。(Tさん)

「NEC問題の幕引き許さぬ。証拠示し審理を有利に」

「市民の会」がよびかけ

NEC問題では、157人の市民が原告となり、補助金返還と土地造成問題等で裁判中です。しかし、市長らは責任追及から逃れようと幕引きに必死です。

裁判は、12月8日、3月1日の2回おこなわれ、多くの傍聴者の中、証拠書類にもと

※百条委員会とは

地方自治法100条にもとづき、地方議会が自治体の行政事務について調査する必要があると判断した場合に設ける委員会。調査に必要な関係者の出頭・証言や記録の提出を求めることができ、これに違反すればその関係者は告発され、正当な理由がなくて出頭や証言を拒否したときは罰せられる。(『日本大百科全書』より)



市民の会代表 市川富士雄
73-2928

事務局 武田美香
76-0745

支部の連続教室

共産党の支部活動

伊那東第一支部

2中総で決定された綱領・古典の連続教室が先ごろ終了しました。2時間のDVDを視聴し、感想を出して討議すると夜遅くなることを考慮し、連続教室に限っては木曜日の午後1時半からと決めて取り組みました。参加者は、3、6人。時間は一回3時間前後でした。

テキストの他にその都度講師が作成・配布した資料は、分かりやすく講座の内容を豊かにして好評でした。特に古典教室では、かつて「独習指定文献」だったことも話題になり、学習の重要性が改めて話し合われました。

また各人の入党前後の政治や社会の情勢が話され、教室の内容が身近で具体的なものとして胸に落ちました。今後共党活動を進める上で、繰り返し視聴することが必要と考えられていますし、教室に参加できなかった仲間への、プレーヤーを含めDVDを届けて見てもらおうと考えています。



2012春闘学習集会開く

働くなかまの学習組織―上伊那学習協が上伊那の労働組合に呼びかけて実行委員会を作り、毎年行ってきた「春闘学習集会」。今年は第44回になり、2月24日に伊那市振興公社二階で行われました。高等学校教職員組合上伊那支部の組合員をはじめ地域の労働者など約50名が参加しました。

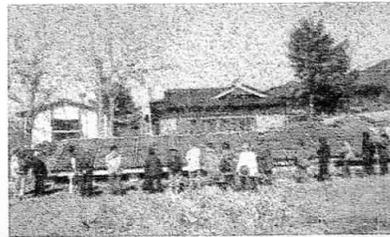


歌声や職場報告の後、愛知県学習協会会長・労働者教育協会理事の吉

田豊さんの「文字通り99%の国民の春闘をつくる」とした講演に参加者は、一層、元気づけられました。

循環型社会を育てる見学会

伊那のぞみ（希望）の会は、2月21日、駒ヶ根市の生ごみ処理機や電気自給率120%の家などの見学会を持ち、循環型社会について考える機会としました。



太陽光パネルを見学（駒ヶ根）



壊れた公衆トイレ

飯島光豊

マイナス10度を超える寒さで水道管の破裂が頻発した2月のある日。「公衆トイレが壊れた。何とかして」と悲鳴のような市民の電話。すぐ見に行く。「大」のトイレがざっくり割れて使えないことが歴然。入口には「使えません」の伊那市の張り紙のみ。早速、担当課に事後対策を聞けば

「すぐ修理できない。図書館のトイレまで行つて」とそっけない返事。市議にさえこんな返事なのだから、市民にはさぞかしの対応だったのでしよう。

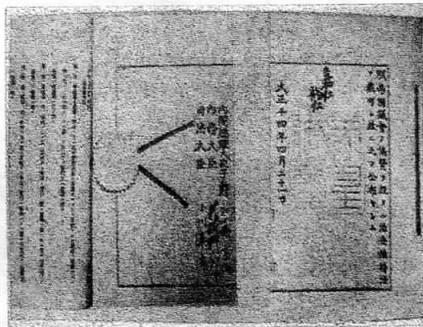
融通のきかない市の担当に「市民が毎日使う公衆トイレだ。直るまですぐに簡易トイレを置くように」と交渉するも埒があかず、市のトップとも話し、ようやくとりあえずの簡易トイレを設置させました。トイレの修理が完了して使えるようになったのは3月の中旬でした。

昭和初期の上伊那

2・4事件の頃 <4>

階級闘争の弁証法か

治安維持法の目的遂行罪とは、労働運動や農民運動、学生諸運動などの活動家に対しては、共産党員でなくても「日本共産党の目的遂行のための活動」というへ呪文を唱えれば、特高は、いつでも検挙し、証拠があろうとなかろうと厳しい取調べを進めることができる仕組みでした。



治安維持法の原本

1918年（大正七年）富山県の漁村の主婦たちの闘いから始まった米騒動はたちまち全国に波及し、日本歴史上、空前の人民の大闘争となりました。それ以前から高まっていた普通選挙を要求する運動と、これらの人民の闘いによって、1925年、ついに普通選挙法が成立しましたが、実はこれと抱き合わせにして治安維持法も制定されたのです。1928年（昭和3年）2月20日の初めての普通選挙が闘われたとき、長野3区（諏訪、上伊那、下伊那）で労働党から

によって、抑圧する側の態勢もまた質的に変わっていったのです。

「普通選挙」で

藤森成吉が立候補

余談ですが、1924年（大正十三年）ころ、下伊那郡の「自由青年連盟」について書かれていた特高資料には「カノ自由青年連盟ノ綱領タル『歴史的使命ノ遂行』ナル意義ノゴトキ最モ難解ニシテ、取調べノ苦心想像に余リアリタリトイウベシ」というくだりがあります。昭和初期の凶暴な弾圧と比べて、大正末期は牧歌的だったのか、わずか五、六年の間に特高もずいぶん「進化」したものです。これこそ階級闘争の弁証法というべきものでしょう。国民の闘いの質的前進

伊那谷の歴史散歩

（境界 有賀光良）

催し案内

★ドキュメンタリー映画「青空どろぼう」

四日市公害裁判闘争の記録映画

4月7日(土) 午後2時~3時30分

- ・いなっせ5階会議室
- ・前売券500円(当日券700円)
- 高校生以下無料

主催: 映画「青空どろぼう」をみる会

問合せ 小林史磨さん

☎74-5351

★日本共産党演説会におでかけください

4月8日(日) 午後4時半~6時

- ・JA上伊那本所3階ホール(フラワーパレス)
- ・弁士 佐々木憲昭(衆議院議員)
- 藤野やすふみ(比例予定候補)
- 三沢よしお(長野5区予定候補)
- ・参加費無料

主催: 日本共産党上伊那地区委員会・党後援会

☎72-2465

★原発と平和について考える

憲法記念日のつどい

5月3日(木) 午後2時~4時

- ・JA上伊那本所3階ホール(フラワーパレス)

講演「原発技術者からみた憲法第9条」

小倉志郎さん(福島第一原発建設時の技術者)

- ・協力券500円(高校生以下無料)

連絡先: 久保田諄さん ☎78-0823

春日幸雄さん ☎79-8781

戸田義美さん ☎78-1467

短歌

境 中村 正和

ピリピリと冷え込む朝もお出かけは
身も軽やかに若き親子は

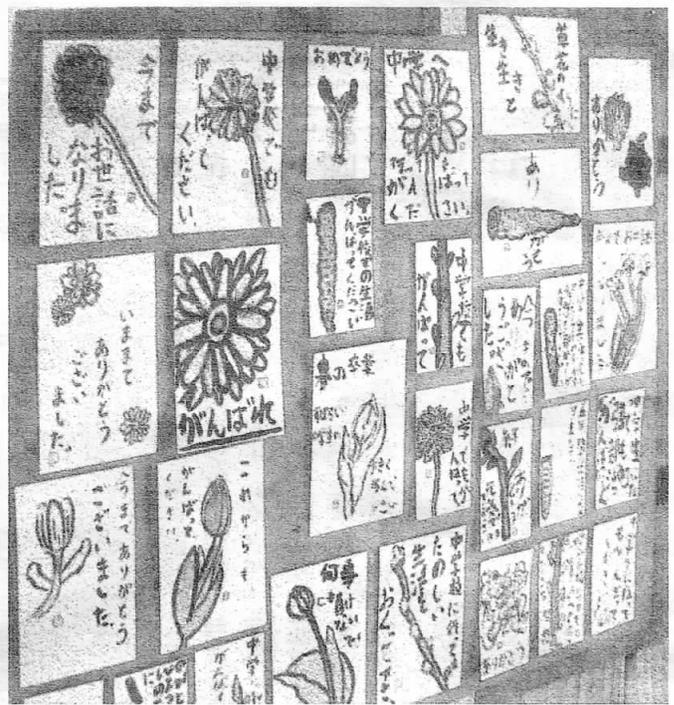
瀬戸内の船のうねりは水鳥の
群れを揺らして今日は春分

新聞に包みしほうれん草の束
はこべも混じる友の手づくり

原子力明るい未来のエネルギー
標語で見るまやかし言葉

小海線楽譜広げる女子高生の
切り揃えたる爪のすがしき

絵手紙



福島県大熊町立熊町小学校5年生の作品
テーマ: 卒業するお兄ちゃん・お姉ちゃん達へ贈る言葉

大熊町は、福島第1原発の1~4号機までがある町。事故が起きて会津若松市に避難している子どもたちの作品です。指導・荒恵子(西箕輪)
*会津若松市まで行って援助しました。



絵手紙制作中の熊町小学校の児童